

簡単！株 初心者も3分で理解できる [PR]

2016.3.3 08:00

文字の大きさ 小 中 大 印刷

【ニュースな街】

銀座の風景をつくった建築家がいた アントニン・レーモンドとは何者なのか

ツイート 反応 おすすめ? G+1 ?

(1/3ページ)

次々と新しいビルが建つ東京・銀座。戦前の建物が姿を消す中、1933（昭和8）年に完成した銀座4丁目の書店「教文館ビル」を設計したチェコ出身の建築家、アントニン・レーモンド（1888～1976年）の作品を紹介する「日本近代建築の父 アントニン・レーモンドを知っていますか」が同ビルで開かれている。10日まで。



銀座通り側から見た教文館ビル＝東京都中央区銀座

■ 聖路加病院や松坂屋も

レーモンドは大正8（1919）年、旧帝国ホテル設計のため、米建築家のフランク・ロイド・ライト（1867～1959年）とともにアメリカから来日。第二次大戦中を除き、40年以上日本に滞在して400点以上を設計した。

教文館ビルは、日本語版聖書などを発行する聖書館ビルに隣接しており、2棟で1つのビルのように見える。入り口も1つなので、余計にそう錯覚するのだが、内部はエレベーターホールや階段室を共有しながら、2つに分かれる。書店部分が、教文館ビルだ。

ビルは外観をリニューアルしているため昭和初期のレトロな感じはないが、内部に入るとエレベーターホールや急な階段などに当時の雰囲気を残している。

展覧会では、教文館ビルと同じくレーモンドが設計した旧日本楽器ビル・山葉ホールや聖路加国際病院旧館、松坂屋デパート（改築）といった銀座周辺や、東京女子大学本館・礼拝堂（東京都杉並区）、映画「ここに泉あり」（1955年公開、岸恵子主演）で知られる群馬交響楽団の本拠地・群馬音楽センター（同県高崎市）、軽井沢のシンボル・聖パウロカトリック教会（長野県軽井沢町）など15の代表的建築を初公開の設計図や写真で紹介している。

教文館ビルにもあったそうだ。戦後、広告塔を建てるため取り壊してしまったそうだが、写真を見ると、幾何学模様のアールデコ調のエンパイアステートビルの最上部に似た雰囲気だ。隣接する和光の時計台と並んでいけば、銀座の名物になったのではないだろうか。

レーモンドはこのビルに設計事務所を構え、そこで前川国男（1905～86年、代表作に「東京文化会館」など）、吉村順三（1908～97年、代表作に「奈良国立博物館新館」など）ら後に日本を代表する建築家を育てた。

教文館の渡部満社長（65）は「展覧会を通じて日本の建築界にレーモンドが残した足跡を知ってほしい。教文館も耐震審査により耐震基準適合の証明をいただいているので、これからもできるだけ使っていきたい」と話している。



松坂通り側から見るとビルは2つに分かれているのが分かる＝東京都中央区銀座



展覧会に展示されたレーモンド事務所のメンバーの写真。後列右から4人がレーモンド、前列右から1人は吉村順三、3人が前川国男。教文館ビルの最上で撮影された。



写真のほか模型なども展示されている＝東京都中央区銀座

山葉ホールや松坂屋は最近まで存在していたので、見覚えがある。松坂屋は外壁に信楽焼の陶器を貼り付けてあり、見る角度によって色合いが変わるように工夫されていたそうだ。

■ 機能や経済性を最優先

レーモンドの設計思想には、(1) 機能を最重要視する＝直裁性 (2) 虚構を排し、無駄・無意味な空間を作らず簡素に徹する＝単純性 (3) 費用を無駄なく有効に使い、完成後の維持・管理に十分配慮する＝経済性 (4) できる限り自然素材を使い、既存樹木や地形など環境を保持する＝自然主義 (5) 建築は個性的、人間的でなければならない＝民主的な建築—の5原則があった。

もう一つ、レーモンドの建物には「塔」に特徴があった。周囲の風景になじむよう、東京女子大本館・礼拝堂では広いキャンパスで空に向かって伸びていくような、聖パウロ教会では周囲の木立に一体化したような塔が立っている。

■ 今もレトロビルが点在

ついでに、銀座を歩いて“レトロビル”を見てみよう。

代表格は前出の和光本館（昭和7年建築、銀座4の5の11）。服部時計店（現セイコーウオッチ）の小売り部としてスタート、現在は高級用品を扱ういわばセレクトショップだ。

東へ向かうとヨネイビル（昭和5年建築、銀座2の8の20）。現在は兵庫県芦屋市に本店がある洋菓子店、アンリ・シャルパンティが入っている。北に向かったところにある奥野ビル（昭和7年建築、銀座1の9の8）は多くのギャラリーが入居しており、その306号室は、美容院だった「スダ美容室」の保存活動が進んでいる。

昭和通り沿いには川崎ブランドデザインビルディング（旧宮脇ビル、昭和7年建築、銀座1の20の17）があり、現在は銀座レトロギャラリーMUSEE（ミュゼ）として利用されている。

普段は見落としているけれど結構あるもんだなあ。今度の休み、地図を片手に探してみてはいかがですか。（慶田久幸）

【メモ】教文館ビル 東京都中央区銀座4の5の1。「日本近代建築の父、アントニン・レーモンドを知っていますか」は9階ウェンライトホールで10日まで。開場時間は午前11時から午後7時、入場料大人、大学生、専門学校生500円、ほかは無料。問い合わせは（電）03・3561・8446。



銀座通り側から見た教文館ビル＝東京都中央区銀座



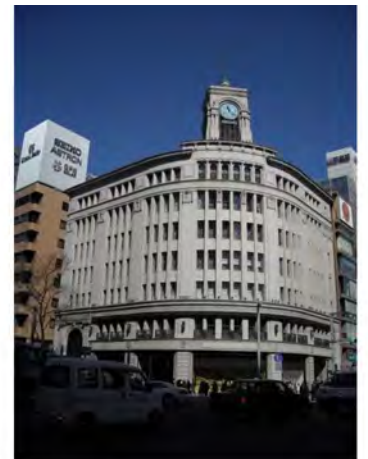
石造りのアーチが美しいヨネイビル＝東京都中央区銀座



多くのギャラリーが入る奥野ビル＝東京都中央区銀座



銀座通り側から見た教文館ビル＝東京都中央区銀座



和光本店＝東京都中央区銀座



ギャラリーが入る川崎ブランドデザインビルディング＝東京都中央区銀座